

通算連載 63

もう、悩まない！ 『石原健の HOTEL LOVERS』

#24

合資会社 一條旅館
代表社員
(屋号)時音の宿 湯主一條、THE YUKAWA 一條支店
一條 一平 氏



合資会社一條旅館
代表社員
一條 一平 氏

ホテル業界から旅館業界へ

石原 一條さんとの出会いは、「インターコンチネンタルホテル」でしたね。その後、お互いに「日本ホテルスクール」の卒業生であることもわかり、親しくなりました。まずは、ホテリエになられたきっかけから教えてください。

一條 家業が旅館であったこと、そして従来型の旅館(当時の湯治場と旅館形式)では今後やっていけないと考えていたので、地元の「宮城県立白石高等学校」を卒業後、「専門学校 日本ホテルスクール」

で2年間ホテルの勉強を行ないました。合計4回の研修の最後が客室数81室の「ホテルワトソン」でした。実家が71室で規模感が似ていたのと、当時やりたかったフロント勤務の経験が積める唯一の実習先で、就職活動の際に総支配人から誘われて、良い環境だったので働くことにしました。実は妻ともその研修先で出会ったのです。

石原 そこから転職をされたきっかけは、何だったのでしょうか。

一條 「ホテルワトソン」の先輩が、新規開業する「ホテルインターコンチネンタル東京ベイ」に転職され、誘っていたき、面接で英語が好きで、外資系ブランドのホテルでチャレンジしてみたいと熱意を語ったところ合格し、フロントに配属されました。その後、コンシェルジュに異動になり、3カ月が過ぎた頃には完全に英語脳になっていました。

石原 そこから実家に戻り、家業を継がれました。これは前から決めていたのですか。

一條 東京へ出る際に実家には戻らない決意で臨んだのですが、たまたま電話をした時に、普段は絶対に出ることのない父親が出て、すぐ帰ってこいと言われたことが決め手でした。経営がうまくいっ

第24回目のゲストは、合資会社一條旅館で第二十代目当主を務める一條一平氏。一條旅館がある地は、湯治場として460年以上の歴史を持つ宮城県・鎌先温泉。従来型の旅館運営で、一時は存続の危機を迎えていたが、お客さまの声をもとに改善を繰り返し、再興。一條氏に、これまでのキャリアや今後のビジョンについて聞いた。

ておらず借金もあったので、私に立て直してほしいと願っているのを理解して、2001年32歳の時に戻り、2014年に第二十代目を襲名し、一條達也から一條一平へ改名しました。

石原 一番の記憶に残っている思い出は何でしょうか。

一條 京都の俵屋さんに妻と泊まった時のこと、接待を担当してくださった方が食事の私たちの会話を聞いて、「多分気に入ってもらえるBARがありますので、行かれませんか？」と言ってくれました。それが絶妙なタイミングなのです。食事を終えて宿を出る時、冬の時期で寒かったのですが、靴を履いたところ温かいのです。靴の中を温めておいてくれたことに感動。翌日出発の時に、タクシーで駅まで行って荷物を置いてから観光に行くことを伝えました。そうしたら、荷物を先にピックアップして駅に運んで保管するサービスがあるようで、そのことを最初に伝えていなかったとお詫びされました。それから時間外にも関わらずピックアップサービスを手配してください、私たちは手ぶらで観光に行くことができました。担当された女性は「大丈夫です。時間外ですが、俵屋であることと言えば取りに来てくれますから！」という

ではありませんか。サービス精神もそうですが、自分の仕事と会社に誇りを持っていると感じました。こんなスタッフを雇用している俵屋さんは凄いと感動したので、自分のホテルでもそれを考えて、実践しています。

なりたい自分を想像し、自身を創造する

石原 これまでに一番お世話になった方について聞かせてください。

一條 東京ステーションホテルの 藤崎 斉 常務取締役総支配人です。2014年にシンガポールでのセールス時に、藤崎さんと初めてお会いしました。私がインターコンチにいた時、藤崎さんはウエスティン東京にいたということから一気に距離が縮まり、異国の地でお互いに切磋琢磨しようと話し合いました。帰国してからは共に講演で登壇する機会もあり、2023年9月には社員研修で伺い、質の向上や老舗としての心構えを教えていただきました。その後、息子も清掃のアルバイトでお世話になりました。

石原 モットーやポリシーは何でしょうか。

一條 好きな言葉は「想像＝創造」です。なりたい自分を考えて、それと達成するために行動しています。自分自身のブランド力を上げるために、外の風に吹かれることと、業種は関係なく質の高い仕事をしている人と一緒にいることも心掛けています。

石原 チームワーク作りで大事にしていることを教えてください。

一條 何といっても、コミュニケーションです。お客さまとのコミュニケーションはもちろんですが、スタッフ同士そしてスタッフと経営者との関係性も円滑になるように、研修等を大切にしています。

石原 趣味や特技、ストレス発散方法に



ついても聞かせてください。

一條 一番の趣味は自宅の掃除で、毎週休みの日には必ず行なっています。特に油污れが綺麗に落ちるとストレスが飛んでいきます。温泉にゆっくり浸かって汗をかくことも好きで、毎日、朝と夜に温泉に入ると、いろいろなアイデアが降ってきます。また料理も好きで、得意メニューはビール焼きそばとペペロンチーノです。お酒も好きで、シャンパンとラム酒にハマっています。また、24年11月には、メーカーズマークのプライベートセレクション (THE YUKAWA バージョン) が届き、仕事とプライベートの両方で楽しんでいます。

石原 これからの若いホテリエに伝えたいことは何でしょうか。

一條 日本のおもてなしのDNAを次の世代につないでほしいと思います。自分

の施設はもちろんのこと、語学やお酒の知識など自分の武器を持ち、その得意とする分野を深掘りして、プロとして活躍することを願います。

石原 最後に今後のビジョンを聞かせてください。

一條 鎌先温泉の将来を考えるのは一家の務めであると、亡き父からよく言われていました。施設の老朽化が進む中で、価値のあるものは残して、壊すべきものは壊すことも必要であると考えています。壊した跡にはまかないカフェをつくり、皆が集いたくなるようなエリアにしていくことで、後継者が帰って来たいような地域にしていきたいです。

石原 「想像＝創造」、自分が頭の中でイメージした思いは必ず形にできるという、素晴らしい考え方を、次世代にしっかりと繋げていってください。



株式会社ホスピタリティ デザイン 横浜
代表取締役

石原 健

Profile > 桜美林大学経済学部卒業。日本ホテルスクール卒業。ホテル産業経営塾卒塾(第一期生)。ホテル センチュリー ハイアット勤務後、1989年、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルの開業準備室に第1期生として入社。国内外からのVIP対応等で、4度にわたる皇室接遇担当の栄誉も授かる。ウェスティンホテル仙台を経て、2014年、(株)ホスピタリティ デザイン 横浜を設立。厚生労働省 事業検討会 委員、ホスピタリティ教育研究会 会長、HSN 会 顧問、JARC 理事、産業能率大学 兼任教員など、宿泊・サービス業界団体や学校、企業などで活躍中。

